

福井県における郷土史研究の動向

令和元年度分

本会事務局

福井県立図書館郷土資料グループ編

はじめに

令和元年十月に長年郷土史料研究に携われてこられた松原信之氏が逝去された。氏は福井県郷土誌懇談会に数多くの論文を発表するだけでなく理事としても活躍されており、謹んでご冥福をお祈りしたい。なお前号（64巻2号）に「松原信之先生 略歴・業績目録」（長野栄俊／編）が収載されている。

十一月には松平文庫の寄託先が福井県立図書館から福井県文書館に変更になった。四月からリニューアルした「デジタルアーカイブ福井」に松平文庫の主な史料が登録され、検索・閲覧がさらに容易になった。同文庫のほかに越国文庫（福井市立図書館所蔵）、越蔡文庫（福井市立郷土歴史博物館寄託）も同一画面から検索できるようになっており、より利用が広がることを期待したい。

以下、令和元年度に刊行された主な出版物を紹介し、県内郷土史研究の動向とする。なお敬称は略させていただいた。

一 歴史・自治体史・地域史・史跡調査報告書

福井県郷土誌懇談会『幕末の福井藩』（岩田書院）は、本川幹男らが幕末の福井藩を多角的にとらえた一冊。同会によるブックレットシリーズ第二弾となる。

越前市が刊行した『越前市史 資料編6 本保陣屋関係文書』は、近世における地方支配や陣屋の役割などを紹介する。鯖江市教育委員会『さばえふるさと散歩道』は、『広報さばえ』の連載記事を再編集したもの。

関根達人編『石造物研究に基づく新たな中近世史の構築』（弘前大学人文学部）は、敦賀市立博物館で開催した講演会「石に刻まれた歴史」における研究報告を収める。

福井市上野本町区『変わりゆく上野本町・土地区画整理事業のあゆみ 続編』は、土地区画整理の完了に伴い十五年ぶりに編集した一冊。「福井市」三留誌編纂委員会『三留誌』は、戦国時代に築城されたと伝わる「三留城」などを紹介する。岡田健彦『大野藩の蝦夷開拓について』は、これまでの研究資料を基に大野藩が過酷な地を開拓地に選んだ経緯と先住民との関わりについて再評価を試みる。片桐哲郎『身近な地名から古代史へ』は、五年かけて県内外を歩き、身近な地名の謎を読み解いた。小浜市教育委員会は『史跡後瀬山城跡保存活用計画書』を、南越前町教育委員会は『史跡杣山城跡 整備基本計画書』を作成。後書は平成十九年度に策定した『史跡杣山城跡保存管理計画書』をもとに基本的な方針を示したもの。美浜町教育委員会『復元！興道寺廃寺をとりまく景色』は、古代寺院の景観を考えるシンポジウムをまと

めた。

そのほか主な発掘報告書に、『樋山遺跡 細呂木阪東山遺跡』『寄安・栗森遺跡』（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター）がある。

二 目録・人物・ガイドブック

福井県教育委員会『大音家文書目録』は、若狭町の大音家に伝来した六十二箱8566点の文書を悉皆調査しまとめたもの。福井県文書館は『福井藩士履歴7 子弟輩』『福井藩士履歴8』を刊行。後者は、下級家臣団の約五〇〇家の人事記録を取り上げており（全六巻刊行予定）今回がその一巻目となる。福井テレビ取材班『橋本左内 時代を先取りした男』（扶桑社）は、本の随所にQRコードがあり、動画も楽しめる仕掛けが施されている。小和田哲男『明智光秀・秀満』（ミネルヴァ書房）は、明智光秀とその娘婿秀満の謎に包まれた前半生、本能寺の変の謎、人となりなどに迫る。『まっふる明智光秀』（昭文社）は、明智光秀ゆかりの地を訪ねる旅を提案する旅行ガイドブック。福井県立こども歴史文化館は紙芝居『市川新松 水晶ものがたり』を制作。市川新松は世界的な鉱物研究者。熊本県立美術館は『横井小楠とその時代』を刊行。真柄甚松『関義臣』は、明治末期に爵位まで授けられていながら、あまり知られていない「関義臣」について史料を基に明らかにしようと試みた一冊。杉田玄白没後200年記念事業企画検討委員会は『近代医学を拓いた杉田玄白』を発行。栗田

幸雄『真実一路』は自身の知事時代を含めた半生を振り返った自叙伝。福井県観光営業部観光振興課は『石碑巡りガイドブック』を作成。日本山岳会福井支部は『福井県の山』（山と溪谷社）を刊行。九年ぶりの改訂となる。

三 各分野団体史

各分野団体史では、永平寺町健康長寿クラブ連合会『永平寺町健康長寿クラブ連合会（旧永平寺町老人クラブ連合会）60年史』、小浜市立宮川小学校閉校記念事業実行委員会『くらかけ山に学び』、福井県小浜市立遠敷小学校平成三十年度6年生『ありがとう遠敷小学校』、清明げんきの郷『清明げんきの郷』10周年のあゆみ』、福井本丸ライオンズクラブ『福井本丸ライオンズクラブ』結成50周年記念誌』、公立丹南病院『公立丹南病院20年間の歩み』、福井県鉄工業協同組合連合会『福井県鉄工業協同組合連合会設立50年のあゆみ』、美方高等学校創立50周年記念事業実行委員会『福井県立美方高等学校50周年記念誌』、福井県美術の会『福井県総合美術展70回記念誌』などが刊行された。

四 宗教・経済・民俗

若狭路文化研究会は『氣比宮社記 下巻（第5巻〜第9巻）』を発行した。同会が二十年にわたり続けてきた基本的な史料集の刊

行は今回で完結した。高橋教雄『白山信仰の研究 続』（名著出版）は、『美濃馬場における白山信仰』の続編。岩井孝樹『道元の思想と書』（大法輪閣）は、昭和六十年代から発表してきた道元に關する調査を集成した一冊。堀大輔『古代敦賀の神々と国家』（雄山閣）は、古代の敦賀に関する自身の論文・研究ノートなどの成果集。高尾察誠は『称念寺のあゆみ』を刊行した。

東京若越クラブと福井新聞社は『福井の幸福を語ろう』（中央経済社）を刊行。福井にゆかりのある首都圏在住者による福井活性化のための提言集。

おおい町立郷土史料館『ニソの杜と先祖祭り』は、前年刊行の『大島半島のニソの杜の習俗調査報告書』について行われた公開シンポジウムの記録集。

五 自然科学

東十郷まちづくり協議会は『伝えよう福井震災の記憶』をまとめた。齊藤衣代『村国山を楽しむ花のポケット図鑑 上』『同 下』は、上巻に百九十九種、下巻に百九十二種の草花をカラーで紹介する。中村伸一『入門！自宅で大往生』（中央公論新社）は、「家逝き」を望む本人と看取る側の備えについて提示する。杉村和彦らによる『三世代近居の健康長寿学』（晃洋書房）は、福井をはじめとする北陸の長寿県の秘密を明らかにした一冊。

六 工業・土木・建築

福井県総合政策部交通まちづくり課は『福井城山里口御門復元整備事業報告書』を作成。小浜市教育委員会文化課『小浜西組 重要伝統的建造物群保存地区』は、保存地区に選定されて十周年を記念しこれまでの修理修景の歩みを記録する。坂井市教育委員会は丸岡城シンポジウム資料集『ここまでわかった！お天守の新しい知見と謎』を、吉田純一は同シンポジウム結果をまとめた『丸岡城』を刊行。南越前町観光まちづくり課は『今庄宿 伝統的建造物群保存対策調査報告』を作成した。奥矢恵は論文「近世の白山三禅定道における室の所在・所有と形態」を『2019年度日本建築学会関東支部研究報告集』（日本建築学会）で発表。仁愛大学人間生活部の伊東知之は昨年に引き続き学生とともに『越前和紙物語 名塩和紙伝承編』を制作。ほかに『半夏生鯖物語』も制作した。杉村和彦らによる『図説神と紙の里の未来学』（晃洋書房）は、和紙の世界の变革を見据えながら、和紙の持つ世界性と工芸観光について検討する。福井県陶芸館『福井県産土管の研究』は明治五年から約百年間製造された福井県産の土管（陶管）の歴史を紹介する。

七 産業・芸術・文学

福井県農林水産部政策推進グループ『新ふくいの農業基本計

画』は、すべての農家が活躍できる『農業新時代』の実現を目指す。福井新聞社は『あたらしいおいしさいちほまれ365日』を刊行。北陸農政局九頭竜川下流農業水利事業所『九頭竜川下流事業誌』は、九頭竜川下流地区の国営かんがい排水事業が二十年の歳月を経て完工したことを記念してまとめられた。藤原武二『史跡・名勝・天然記念物の調査保存整備』は、長年文化財に携わってきた著者の回顧録も兼ねる。小田匡保は学生らと『福井県坂井市三国町調査報告くらつきょう・東尋坊・景観』をまとめた。宮本康『三方五湖のシジミ』（福井県里山里海湖研究所）は、シジミを知り味わい、シジミを通じて歴史を学び、湖の将来を考える一冊。渡邊誠『福井鉄道の機関車デキ3とデキ11』は、車両の外見や車歴だけでなく、機器についてまで踏み込んでまとめた。おおい町と若狭一滴文庫が発行した『出逢い 渡辺淳画集』は、二十六年前に出版された『渡辺淳画集』以降の作品と未収録の作品を収める遺作集。高浜町が作成した『はらぺこシジミ』は同町を舞台にしたオリジナル絵本。佐藤実紀代『はしはうたう』は若狭塗り箸職人の技に魅せられその技をまとめた一冊。

荒川洋治は前作から二十七年ぶりとなる『荒川洋治詩集 続続』（思潮社）を発表。かこさとしの遺族はかこさとしの初めての詩集『ありちゃんあいうえお』（講談社）を発表。かこが孫たちの成長を書き記した作品。

前川幸雄『福井県漢詩文の研究』（朋友書店）は、松平春嶽、吉田東篁、日下部太郎、橋本左内らの作品の研究と註譯をまとめ

た。

八 歴史研究施設の動向

最後に各施設の主な特別展を紹介する。県文書館は「年貢の納めどき―誰が？いつ？どこに？」「あらためまして松平文庫展」、県立歴史博物館は「家事・家電・家庭のうつりかわり―主婦の近代―」「ふくい鎮守さま―神と真宗道場が織りなす信仰世界―」、県立若狭歴史博物館は「金色の煌めき―金に彩られた若狭のたから―」、一乗谷朝倉氏遺跡史料館は「越前朝倉物語―一乗谷にまつわる物語と伝説―」、県立美術館は「世紀の屏風絵」特別公開「東京藝術大学（スーパークローン）文化財展―シルクロードからゴッホまで―」「手塚雄二展 光を聴き、風を視る」、県立こども歴史文化館は「海を越えた先人たち―幕末・明治期、未知の世界との出会いと交流―」、平成三十年度に開館した福井県年縞博物館は、若狭三方縄文博物館との合同企画展「古代エジプト文明―気候変動と水辺の民―」、福井市立郷土歴史博物館は「將軍家茂と皇女和宮」、敦賀市立博物館は『おくのほそ道』330年の旅、みくに龍翔館は「松の巨匠新道繁がみつめた世界」をそれぞれ開催。展示図録が作成された特別展もある。

以上、個人史、抜刷など割愛した資料や、漏れた資料についてはお許しいただきたい。